

所属・資格 体育学科・准教授

申請者氏名 吉田 明子

研究課題		全国規模のダンスコンクールに出場した小中学生のダンス活動の指導體制の課題に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	申請者は、2013年より全国規模の小中学生のダンスコンクールの運営に携わり、2019年より出場者データの収集・分析および出場団体の代表者（指導者）へのアンケート調査を継続してきた。これまでの研究から、とりわけ出場団体のダンス活動実態における課題には、活動場所・施設の不足や不備、生徒・子どものモチベーションの差、練習内容や練習時間が挙げられた。こうした課題には、各出場団体の本コンクールへの参加動機と参加に対する活動方針、指導體制が関連すると考える。そこで本研究は、本コンクールの出場要件や審査基準について、これまでの推移を把握するとともに、出場団体の代表者（指導者）に審査基準と本コンクールへの参加動機および活動方針、指導體制がどのように関係しているのかについてインタビュー調査を行い、ダンスのコンクールにおいて審査・評価を受けることの意義について検討することを目的とする。
	研究の 結果	ダンスコンクール出場団体の代表者（指導者）に本コンクールの出場要件や審査基準が、本コンクールへの参加動機および団体の活動方針や指導體制にどのように関係しているのかを調査する前段階として、大会運営者と出場者との間で交わされる質疑応答による情報の共有（やりとり）について、その内容を整理し、ダンスコンクールという社会空間の特徴と意義の検討および考察を行った。その結果、以下のことが整理できた。 (1)競技スポーツと違い、ダンスならではの作品や楽曲に関する細かい情報のやりとりがある。 (2)出場者側が公正にダンス発表を行うために必要な楽曲の対応を学ぶ機会になっている。 (3)他のコンクールと比較すると、楽曲の自由度を保つ分、やりとりの内容も増えている。 (4)やりとりを通して、本コンクール出場チームとしてのクオリティコントロールがされている。 (5)公正で安全なコンクールの機会、子どもたちの発達段階にふさわしい作品（楽曲、振付、衣装）づくりの環境を提供しようとする大会運営者側の試みが出場者に浸透してきている。 (6)エンタメに寄りすぎない教育的なダンスの大会を目指す暗黙知が形成されている。
	研究の 考察・ 反省	本年度は、ダンスコンクールという社会空間の特徴と意義について、出場のために行われる書面によるやりとりは、大会運営者と出場者による「キャッチボール」が行われており、その積み重ねが本コンクールらしい慣習行動を引き起こし、本コンクールの社会空間の特徴を形作り、それらが様々な関係者に共有されることによって、単に「優劣を競う」場だけではないコンクールの多様な意義を見出すことにつながっていることを導き出すことができた。 ダンスの隆盛に伴い、競技性の高いダンスコンクールが増えるなか、引き続きダンスコンクールの社会空間の特徴と意義について、様々なアクターの実践に目を向けて、研究を続けていきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 【研究発表】 ①学会名 : 日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会 発表テーマ : 全日本小中学生ダンスコンクールに関する研究（5）：アンケートという技法の実践 年月日/場所：2024年8月31日（土）/福岡大学	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		